

# 教科「国語」シラバス

## 1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 国語  (科目) 言語文化	2 単位	高校 第 1 学年	『精選 言語文化』(第一学習社) 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』(桐原書院) 『漢文学習必携 三訂増補版』(京都書房) 『Key&Point 古文単語330四訂版』(いいずな書店) 『新訂 国語図説 六訂版』(京都書房)
<b>学習の到達目標</b>	①言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解し、国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。(知識) ②文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めるとともに、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、国の言語文化について自分の考えをもつ。(思考力) ③作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解するとともに、時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。(伝統的な言語文化への理解)		
<b>評価の観点</b>	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、実際に読解する力を身につけている。《知識・技能》 内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、出来事や場面の推移などを把握することができている。また、登場人物が他の人物や出来事などどのような関係を形成し、それがどう変化しているのかを、人物や情景の描写などを根拠として捉えることができている。《思考力・判断力・表現力》 基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握するとともに、他者との対話や議論を通して、自分の考えを表現したり、他者の考えに共感したりする力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》		

### 【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

### 【点数化が難しい科目や課題について】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…… 80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D：未提出、未実施…………… 0%

## 2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考査 まで	①古典文法の確認 ②『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」 ③古文単語テスト	①古文を正確に読めるようにするため、文章読解の前提となる用言・助動詞を復習する。 ②古文読み解くための基本を復習し、これまでに習得した知識を文章読解を通じて定着させる。 ③文章読解に必要な古文単語の学習について、計画性をもって取り組み、正確な知識を身に付け、実際に使うことができるようにする。	疑問点を生徒同士で話し合い、教え合うことで、理解を深める。  使用教材：『精選 言語文化』、『解析古典文法』、『古文単語330』、プリント
1 学期 期末 考査 まで	①『戦国策』 「狐借虎威」 「蛇足」 ②『伊勢物語』 「芥川」 ③古文単語テスト	①漢文の読み方の基本を復習し、これまでに習得した知識及び新出句形を文章読解を通じて定着させる。 ②比較的読み易い古典作品を用いて、これまでに習得した知識を文章読解を通じて定着させるとともに、登場人物の言動の意図を理解する。 ③文章読解に必要な古文単語の学習について、計画性をもって取り組み、正確な知識を身に付け、実際に使うことができるようにする。	疑問点を生徒同士で話し合い、教え合うことで、理解を深める。  使用教材：『精選 言語文化』、『解析古典文法』、『古文単語330』、『漢文学習必携』、プリント
2 学期 中間 考査 まで	①『土佐日記』 「門出」 ②『十八史略』 「先從隗始」 ③古文単語テスト	①比較的読み易い古典作品を用いて、これまでに習得した知識を文章読解を通じて定着させるとともに、平安期の日記文学についての理解を深める。 ②現代でも使われる故事成語とのつながりを考えながら、これまでに習得した知識を文章読解を通じて定着させ、寓話の解釈を考える力を養う。 ③文章読解に必要な古文単語の学習について、計画性をもって取り組み、正確な知識を身に付け、実際に使うことができるようにする。	疑問点を生徒同士で話し合い、教え合うことで、理解を深める。  使用教材：『精選 言語文化』、『解析古典文法』、『古文単語330』、『漢文学習必携』、プリント
2 学期 期末 考査 まで	①『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」 ②漢詩 「春暁」 他 ③古文単語テスト	①随筆文学を読み、現代にも通じる作者の主張を正確に捉え、時代背景を踏まえつつ他者のものの見方や考え方、論の立て方がどのようなものかを考える力を身につける。 ②漢詩の基本について学ぶとともに、有名な漢詩を鑑賞し、制作の時代的・個人的背景を視野に入れ、描かれた状況や心情を考えることで、作品の主題や表現方法を学ぶ。 ③文章読解に必要な古文単語の学習について、計画性をもって取り組み、正確な知識を身に付け、実際に使うことができるようにする。	それぞれの作品の特徴や主題、登場人物について独自の読みを持つ。  これまでの学習内容を踏まえ、自分の力で文章を読み解く。  使用教材：『精選 言語文化』、『解析古典文法』、『古文単語330』、『漢文学習必携』、プリント
3 学期 期末 考査 まで	①和歌 『古今和歌集』 ②古文単語テスト	①和歌の解釈の基本を学ぶとともに、いくつかの和歌を鑑賞し、平安期の人々の感性や文化的背景についての理解を深める。 ②文章読解に必要な古文単語の学習について、計画性をもって取り組み、正確な知識を身に付け、実際に使うことができるようにする。	これまでの学習内容を踏まえ、自分の力で和歌を読み解き、生徒同士で考えを共有する。  使用教材：『精選 言語文化』、『解析古典文法』、『古文単語330』、プリント

**【成績評価の概要について】**

(1) 学期における評価の対象

- ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ③ 授業内小テスト、古文単語テスト、授業への取り組み姿勢などの平常点：50点（関心・意欲・態度などの評価）

(2) 学期評定の算出方法

定期考査の素点合計200点に対し、平常点合計は50点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

(3) 年度末評定の算出方法

定期考査の素点合計500点に対し、平常点合計は125点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。